

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 岡山市立第三藤田小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒701-0221
岡山県岡山市南区藤田1757

E-mail fujita3s@city.okayama.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 71名 女子 69名 合計 140名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 農業・福祉・地域 ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

(1)ねらい

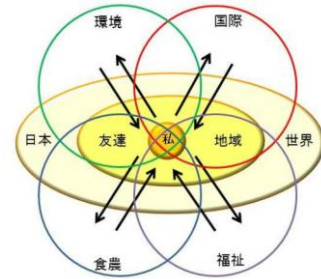
様々なつながりの中から、自分を見つめ直し、自分の生き方を考えていくことのできる子どもを育てる。

(2)実践内容

「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち、主体的に関わろうとする子どもの育成」という研究テーマの下、以下のような実践を行っている。

<社会や自然などとのつながり>

人・社会・自然など、現代社会の課題について追求していく中で、すべてのことは今の自分とつながっていることに気づき、自分の生活を振り返ることのできる単元づくりを行う。



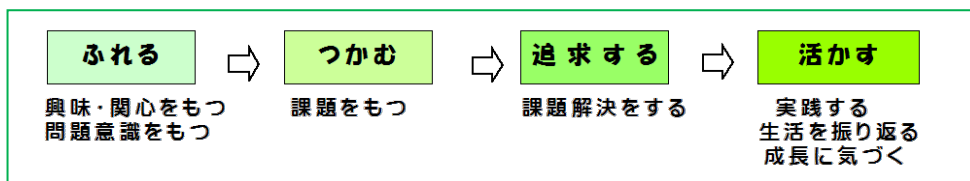
<人とのつながり>

学習の中で、意見交流や生の声にふれること、体験活動を行うことなどを大切にし、いろいろな人の考えや生き方にふれる場面を設定する。



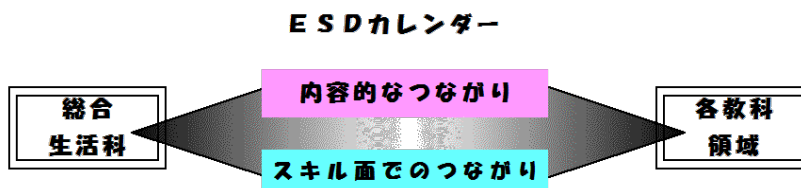
<単元構想でのつながり>

「ふれる」→「つかむ」→「追求する」→「活かす」の4つの段階で構成し、子どもの意識の流れを考えた授業を展開する。



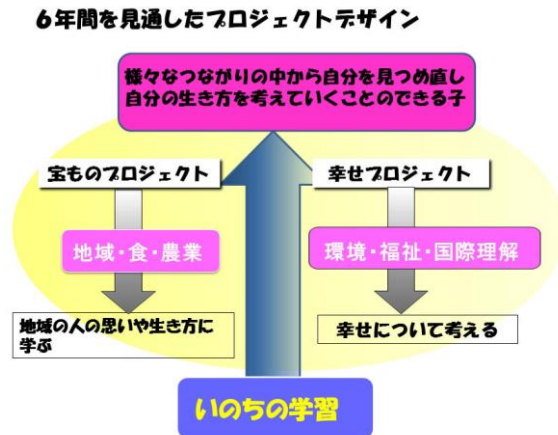
<各教科とのつながり>

ESDカレンダーを活用し、クロスカリキュラムの授業を行うことで、各教科で培った力を、総合的な学習の時間に活用し、育んでいく。



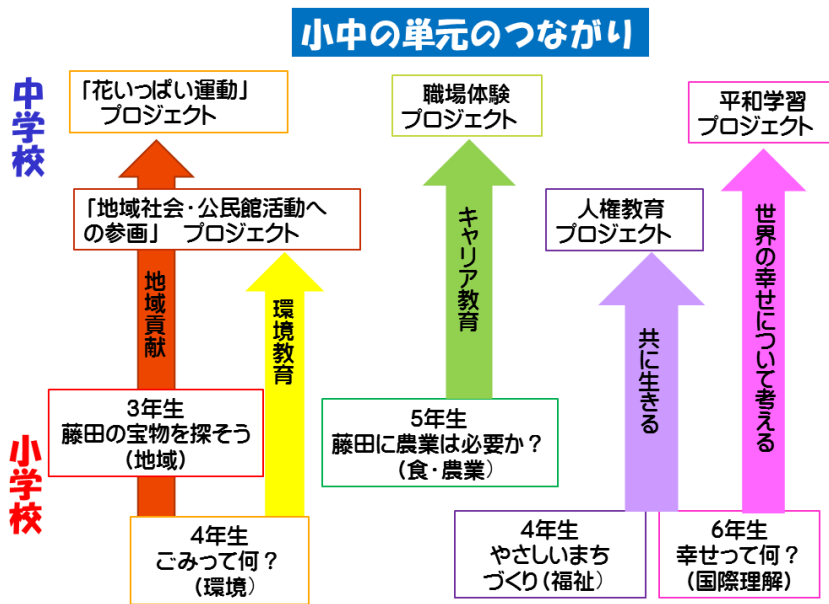
<学年のつながり>

各学年の単元を大きく2つのプロジェクトと捉え、子どもたちに育みたい思いや価値観を縦の系統で考える。



<学校間のつながり>

藤田地区3小学校で、総合的な学習の時間の共通テーマとめざす子ども像をそろえて取り組むことで、同じ思いを育んだ子どもたちを中学校へおくり、中学校でさらに発展させるという縦と横のつながりのある単元になっている。



<地域とのつながり>

「藤田地区ESD地域連絡会」を年2回開催し、地域の方との意見交換会や、児童生徒による1年間のESDの取組の発表会を開催し、地域の方の意見を聞かせていただき、地域の方と共に「地域に学び、未来を切り拓く藤田の子」を育てていけるよう努めている。

3年生【藤田の宝物をさがそう】

1学期 2年時の学区探検をもとに、「藤田の宝物は何か」を考えた。そこで児童から出てきた意見の中からイチゴ・タマネギ等の農作物が上がった。そこで実際に栽培している農家を実際に訪問し、収穫体験やインタビューを行い、生産者の願いなど聞き取り、リーフレットにまとめた。

2学期 藤田産レンコンを試食し、藤田レンコンのおいしさに驚いた。そこで1学期の経験を活かし、レンコン農家を訪問してレンコンのおいしさのひみつや農家の方の苦労や工夫について深く調べ、リーフレットにまとめた。また、ふれあい祭りでこれまでの学習を模造紙にまとめて展示した。



3学期 「JA女性部の方はなぜみそや豆腐をつくる活動をしているのだろうか？」という課題をもち、その理由を追求した。試食をしたり、お話を聞いたり、実際に豆腐作りを体験したりする中で、藤田のよさや人とのつながりを大切にしていることに気づいた。

1年間の活動をまとめる中で、藤田の農産物やそれらを作るために努力している名人のみなさんが宝物であることに気づき、今後も応援していこうという思いを深めていった。



4年生【やさしいまちづくり】

1学期 「藤田は自然にやさしいまちになっているか」を校外に出て調査した。明和製紙の講演「紙はごみじゃない」の出前講座など、環境に関する様々な体験活動に参加し、自分たちに何ができるかを考えて、学区内の清掃活動を実践した。

2学期 「人にやさしいまちとはどんなまちか」について考えた。岡山一番街や藤田地区のバリアフリー調査などを通して、自分たちにできることはないか考えた。

社会福祉協議会の福祉体験教室で高齢者体験や車いす体験、盲導犬交流をした。それらの体験から、まず、藤田のお年寄りの方に、「どんなときに喜びを感じられるか。」をインタビューする計画を立てた。

3学期 デイケア施設を実際に訪問し、1回目は活動の様子を見学させていただいたり、インタビューをしたりした。後日、施設の介護福祉士のお話を聞いて、みんなでお年寄りの方に喜んでもらえる活動を考えた。2回目の訪問では、グループごとに、けん玉やメンコ、お手玉、ビンゴ、カルタなど、みんなで作った計画を実施して交流した。

さらに、1年間の活動を振り返り、藤田をやさしいまちにするために自分たちにできることを考え、「あいさつ運動」を実践した。



5年生【プロジェクト八十八】

1学期 社会科の学習や、地域の農家の方の話を聞く中で、農業の楽しさや藤田地区の農業の抱える問題について知り、「20年後の藤田の農業が、どうなっているとよいか」について考えた。

2学期 バケツ稲による比較実験（朝日・にこまる・ヒノヒカリ・アケボノ・恋の予感）、興陽高校の木村式農法の見学、農家やJAへフィールドワーク、お米の食べ比べ、アンケートによる意識調査などを通して、米作りについて調べ、一人ひとりが『未来の藤田の農業についての提案書』を作成した。

3学期 農業後継者クラブの方と意見交換をすることで、農家の方がどんな思いで農業をされているのかを知った。また、藤田の農業の未来のために、今の自分たちに何ができるかを考え、「ご飯粒を残さず食べるよう全校へ呼びかける」「藤田のお米キャラクターを考案してJAに提案する」ことなどを計画し、実践した。

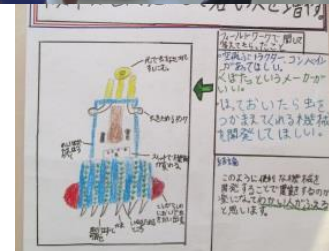


6年生【幸せって何？】

1学期 NPO法人ハートオブゴールド（以下HG）の方からカンボジアについてのお話を聞き、日本との異なる現状や問題について知った。また、支援のあり方についても教えていただき、第1回目の物資支援活動を実践した。さらに、現地の教育・就業訓練施設であるニューチャイルドケアセンター（以下NCCC）の子どもたちとウェブカメラを使って交流した。



2学期 夏休みに学区で募金活動を行った。また、カンボジアの先生方に来ていただき、1学期に集めた物資を贈呈した。さらに、カンボジア体育教育についての話を聞き、新たに「自分たちにできること」を考え、自分たちと同じカンボジアの子どもたちのために、ボールと体育館建設のための費用送ることを計画した。支援活動を実現するために、もう一度、校内で募金活動を行った。



3学期 NCCCの子どもたちとウェブカメラを使って2回目の交流をした。一緒に歌を歌ったり、テレビ越しにジャンケンゲームをしたりして交流を深めた。また、第二回支援活動の成果をHGの方から報告していただいた。1年間の交流活動や支援活動をふり振り返り、「幸せ」とは何かを考え、自分の生活を見直した。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）